

他誌掲載論文

農薬等のポジティブリスト化に伴う検査の精度管理に関する研究

田中之雄^{*1} 土田由里子^{*2} 上野英二^{*3}
田中敏嗣^{*4} 宇野正清^{*5} 木野善夫^{*6}
佐々木珠生^{*7} 堤 泰造^{*8} 花田喜文^{*9}

厚生労働科学研究費補助金研究(食品の安心・安全確保推進研究事業)検査機関の信頼性確保に関する研究,19年度総括・分担研究報告書,27~154,2007

ポジティブリスト制度における一律基準値(0.01ppm)付近の農薬検査の信頼性を確保するために,9地方衛生研究所による外部精度管理を実施した。

いずれの機関も,信頼性のあるデータを得るための要素である「正確な標準品」を用いて「適正な分析法」を実施し「良好な状態の装置」で分析が行われており,測定データの信頼性について問題点の無いことが示唆された。

-
- *1: 現 大阪食品衛生協会
 - *2: 新潟県保健環境科学研究所
 - *3: 愛知県衛生研究所
 - *4: 神戸市環境保健研究所
 - *5: 奈良県保健環境研究センター
 - *6: 和歌山市衛生研究所
 - *7: 広島市衛生研究所
 - *8: 徳島県保健環境センター
 - *9: 北九州市環境科学研究所

腸管出血性大腸菌 0157 の
分子疫学的解析における

IS-printing system の検討

末永朱美 国寄勝也 蔵田和正 石村勝之
伊藤文明 笠間良雄 吉岡嘉暁

厚生科学研究費補助金新興再興感染症研究事業
19年度総括・分担研究報告書,177~194,2007

腸管出血性大腸菌(STEC)感染事例の迅速で詳細な解析が可能な分子疫学的解析法の確立を目的に,IS-printing法を行い,PFGE法と比較した。その結果,IS-printing法でもパルスネットパターン No.間の違いを認識し,同一パルスネットパターン No.内を同一のものとクラスタリングすることができた。

腸管出血性大腸菌 0157:H7 感染事例由来株の分子疫学的解析法の検討

~ 同一患者内における PFGE パターン変化の有無 ~
蔵田和正 国寄勝也 末永朱美 毛利好江
石村勝之 笠間良雄 伊藤文明 吉岡嘉暁

厚生科学研究費補助金新興再興感染症研究事業
19年度総括・分担研究報告書,167~172,2007

腸管出血性大腸菌 0157:H7 感染事例の同一患者内における PFGE パターンの変化の有無を検討することを目的とし,1人の患者から5株分離し,PFGE解析を試みた。その結果,同一患者内における PFGE パターンの変化は1バンドのみであった。この変化は,同一パターンとみなされるレベルであり,疫学的には影響するものではなかった。

従って,PFGE解析は,これまでどおり1株を解析し,その上で,発生状況や患者情報と併せて総合的に判断していくことが妥当と考えられる。